



【学校教育目標】「人間性豊かな心を持ち 実践力のある生徒の育成」  
— 気付き、生かす —

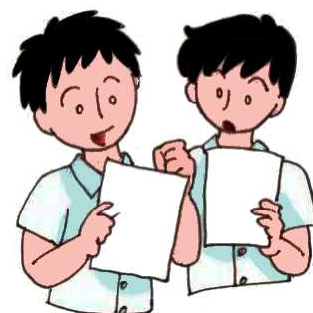
# 若松中だより

千葉市立若松中学校  
校報  
第 38 号  
令和 3年10月 4日

## 通知表について

校長 古市 直彦

新学習指導要領の全面実施に伴い、評価の観点が大幅に変更されることとなりました。そのため、本校でも年間2回お渡しする通知表については、今年度から新しい観点で評価しております。10月7日(木)には通知表をお渡ししますが、以下の点を参考にいただき、ご家庭でお子様と話し合いながら、ご覧になっていただきますようお願いいたします。



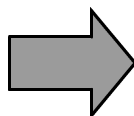
### 1 学習の状況について

評価の観点が今年度より、すべての教科で3つとなります。これは、学習指導要領の目標や内容が、育成すべき資質、能力である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で整理されたことによります。国語科を例に挙げると観点が5つから3つになります。

(例) 国語科

＜昨年度まで＞

- 関心・意欲・態度
- 話す・聞く能力
- 書く能力
- 読む能力
- 言語についての知識・理解



＜今年度から＞

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に学習に取り組む態度

下記の3つの観点で各教科の目標や学習内容に合わせた評価を行います。

#### ＜知識・技能＞

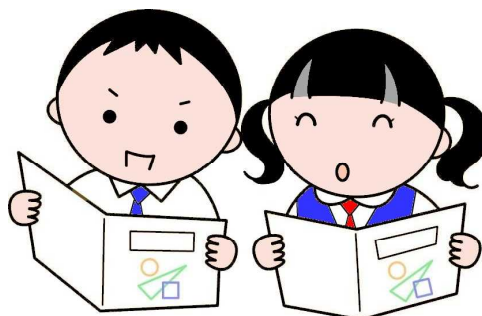
学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価するとともに、それらを概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価するものです。

昨年度までの「知識・理解」と「技能」が統合されたものです。理解を伴った知識を基に、他の場面でも応用できる知識や技能の習得状況を評価します。

#### ＜思考・判断・表現＞

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価するものです。

自分の考えを表現させたり、問題解決的な学習で適切な答えを思考・判断させたりする等の学習場面を通して評価します。



#### ＜主体的に学習に取り組む態度＞

知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、その粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面という二つの側面から評価するものです。

学習の進め方について試行錯誤する等の調整をしながら、学ぼうとしているかどうかという意欲的な側面を評価します。

## 2 各教科の評価について

### (1) 観点別評価

学習指導要領に示す各教科の目標に対する達成度を、次の3段階で示しています。

- |     |                  |
|-----|------------------|
| 「A」 | ： 十分満足できる状況にある   |
| 「B」 | ： おおむね満足できる状況にある |
| 「C」 | ： 努力を要する状況にある    |

### (2) 評定

観点別評価に基づき、教科の目標の達成度を、次の5段階で示しています。

- |     |                                  |
|-----|----------------------------------|
| 「5」 | ： 十分満足できるもののうち、特に程度が高い状況と判断されるもの |
| 「4」 | ： 十分満足できる状況と判断されるもの              |
| 「3」 | ： おおむね満足できる状況と判断されるもの            |
| 「2」 | ： 努力を要する状況と判断されるもの               |
| 「1」 | ： 一層努力を要すると判断されるもの               |

上記の評価については、日常の学習状況や学習成果（定期テスト、小テスト等）、ワークシートやノートの記述、作品やレポートなどの提出作品等を十分に考慮して総合的に評価します。



### □ 特別の教科 道徳

「特別の教科 道徳」では、本市の道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えをまとめる学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることを目指しています。

前期、後期それぞれの授業における生徒の学習状況や道徳性に関わる成長の様子を、他者との比較ではなく個人として見取り、記入しています。

### □ 総合的な学習の時間の記録

総合的な学習の時間では、学年ごとのテーマに基づく学習をはじめとして、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、体験的学習、学年・学校行事との連携を図った学習などを通して、「生きる力」を育成することを目指しています。

前期、後期それぞれで取り組んだ主な学習活動について、後期でまとめて記入します。

### □ 行動の記録

学校生活全般の中での行動や活動の状況について、項目ごとにその趣旨に照らして十分満足できる状況であると判断される場合に、「○」を記入しています。

### □ 総合所見

5月31日(月)にお届けした「校報若松中だより13号」でお知らせしたように、本年度も、前期通知表に「総合所見」は記入せず、後期通知表に年間の様子を記入させていただきます。今後できるだけ生徒に寄り添う時間を確保し、必要に応じて個々の生徒への教育相談を重ねてまいります。

### □ 学年評定について

「学年評定」は、「前期評定」と「後期評定」から総合的に評価し、後期通知表に記入します。

